

◆◆◆
山内 鈴子 議員
◆◆◆



地下トンネル歩道
工事について

質 村民待望の文化情報センターが平成27年4月に開館されますが、児童、生徒達だけで58号線を歩いて信号を渡る事はできません。地下トンネル歩道工事の検討を国道事務所と連携して計画できないか伺います。

答 総務課長 富山欽也
なかゆくい市場交差点の近くに58号線を横断できる地下トンネルが設置されております。距離は遠くなるんですけど、そこを利用すれば文化情報センターへ行くことができます。もう一カ所のトンネル設置は難しいのではと考えております。

質 警察本部の交通課と連携して、現在ある信号は自動ですので押しボタン式の信号機の設置要望検討はできないか。

答 総務課長 富山欽也
押しボタン式の信号にできるか警察署と相談してみようかと思っております。

ボール投げ、握力の
小中生徒の状況について

質 文部科学省は小学校5年生と中学校2年生を対象に4月から7月に実施した2014年度全国体力テスト結果を公表したが、ボール投げ握力とも2008年度の調査開始以来最低となった。恩納村の小5、中2生徒ボール投げ、握力の体力状況についてお伺いします。

答 学校教育課長 石川 司
村内の抽出校3校の調査結果からみると小学校5年生は、男女の握力では0.2から0.3kg下回っております。ボール投げは男子で20cm下回り、女子では90cm上回っております。小学校の握力、ボール投げについて全体的に低い、特に握力は低い結果となっております。中学校2年生においては、男女握力では0.6〜2.3kg上回っており、ボール投げでは、男子で3.2m上回り、女子では90cm下回っております。

質 運動習慣がずっと持久力などの種目が改善してくると言われますが、投げる運動にはこつがあり、記録を伸ばすには小さい頃からの経験が必要。短期間では難しいとも分析されていますが、今後の対応について伺います。

答 学校教育課長 石川 司
現在授業の中でもボール遊びはされているんですが、授業の中のボールに親しむ時間を、より充実させていけるように各学校と調整しながら、中身の工夫改善をしながらやっていきたいと考えております。

◆◆◆
又吉 薫 議員
◆◆◆



少子化対策にも繋がる子ども・子育て支援制度への恩納村の対応について

質 将来の担い手である子どもへの投資は積極的に行うべきだと思います。子供・子育て支援に関する基本的な考えを伺います。

答 村長 志喜屋文康
今回13の事業を地域子ども・子育て支援事業として積極的に考えている。特に待機児童の解消と保育環境の整備、子育て世代の物心両面から支援が大切と考えます。

質 子ども・子育て会議で多様なニーズが把握されている、今後どのような事業を推進するか。

答 福祉健康課長 新里勝弘
個別相談、妊婦健診等既に実施している。新制度で待機児童を中心に教育委員会、関係機関の意見を集約し推進したい。

質 恩納村の5歳児保育問題の解決策。

答 福祉健康課長 新里勝弘
幼稚園で来年度以降も預かり保育を実施する。来年度から5

歳児が補助金の対象外となる。学童での受け入れは難しい具体的解決策の模索中である。

質 恩納村は5歳児から幼稚園に入っている、保育園の5歳児保育でその事業を充実、拡充させる検討はないか。

答 福祉健康課長 新里勝弘
5歳児は幼稚園のニーズが圧倒的で、保育所を増設し5歳児を受け入れるのは難しい。

質 村の待機児童問題の現状はどうなっているかその対策について

答 福祉健康課長 新里勝弘
0歳児12人、1歳児10人、2歳児10人3、4歳児が其々1人。対策として地域型保育事業、家庭的保育事業の活用を考えています。

質 幼児教育、保育ニーズの多様化に対応する村独自の保育事業の展開、或いは、幼保連携型認定子ども園も検討されているか。

答 福祉健康課長 新里勝弘
0歳児から5歳児、全員受けられる子ども園は保育ニーズに合っていると考えます。

老人医療・介護・生活支援を統合する地域包括ケアシステムの構築について

質 今後、住み慣れた地域で、老人や地域とのコミュニティの場にもなり、在宅医療、看護介護予防、生活支援、住まいが一体的に行われる環境が必要。地域支援事業の一環として推進することが可能か。

答 福祉健康課長 新里勝弘
地域支援事業では難しい。地域密着型サービス見込み調査結果を踏まえ事業展開を検討すべきと考える。

質 恩納村の地域包括システムの推進策、取り組み状況。

答 福祉健康課長 新里勝弘
高齢者の尊厳と自立生活支援の目的で、地域の区長や介護関係者を集めケア会議を開いて、医療機関等を招集しケアシステムの構築に努めたい。